

み取りて我が物と為す、大偷盜天下の盗人はなり。

問うて云く、凡夫の位も此の秘法の心を知るべきや。答う、私の答は詮無し。竜樹菩薩の大論九十三に

云く、「今漏尽の阿羅漢還りて作仏すと言うは、唯だ仏のみ能く知ろしめす。論議者は、正しく其の事を

論ずべし。測り知ること能わず。是の故に戯論すべからず。若し求めて仏を得る時は乃ち能く了知す。

余人は信ずべくも、而も未だ知るべからず」等云云。此の釈は爾前の別教の十一品の断無明、円教の四十

一品の断無明の大菩薩、普賢・文殊等も未だ法花経の意を知らず。何に況や藏・通二教の三乗をや。何

に況や末代の凡夫をやと云う論文なり。

之を以て案ずるに法花経の「唯だ仏と仏とのみ乃し能く究尽したまえり」とは、爾前の灰身滅智の二乗

の煩惱・業・苦の三道を押えて、法身・般若・解脱と説くに二乗還りて作仏す。菩薩・凡夫も亦是の如

しと釈するなり。故に天台の云く、「二乗の根敗之を名けて毒と為す。今経に記を得る、即ち是れ毒を變

じて薬と為す。論に云く、余経は秘密に非ず、法花は是れ秘密なり」等云云。妙樂云く、「論に云くとは

大論なり」と云云。問う、是の如く之を聞きて何の益有るや。答えて云く、始めて法花経を聞くなり。妙

樂云く、「若し三道即ち是れ三徳と信せば尚能く二死の河を渡る。況や三界をや」と云云。末代の凡夫此

の法門を聞かば唯我れ一人のみ成仏するに非ず。父母も又即身成仏せん。此れ第一の孝養なり。病身た

るの故に委細ならず。又々申すべし。

建治四年太才戊寅二月廿八日

日蓮 花押